

2003年3月1日(土)～3月30日(日)

寄贈品コーナー

3月30日まで

平塚山岳協会 50周年記念展

戦後の混乱からようやく立ち直り、山へ情熱を向ける余裕がでてくると平塚でも山のクラブや団体がいくつか設立されました。それに伴って山岳協会を組織しようという声も起こってきました。昭和27年(1952)、峯溪俱樂部が中心となって各方面に働きかけて発足の準備を進めました。翌年2月28日、見附台公会堂において結成式と記念映画会が開催され、ここに平塚山岳協会が誕生しました。

初代会長には、柿沢篤太郎平塚市長が就任しました。同時に平塚市体育協会にも加盟しています。さらに、神奈川県スキー山岳連盟(昭和29年から神奈川県山岳連盟)にも属することになり、(同年には大山、西丹沢に道標を設置する仕事も任されました。設立当時の加盟団体は、新日国山岳部(現日産車体山岳部)、平塚農業高校山岳部、達上山岳会、平塚工業高校山岳部、峯溪俱樂部の5団体で会員数は125名、さらに丹南俱樂部(現平塚山岳会)、復興山岳会が同年中に入会したことにより7団体・156名となりました。

初期の協会では特徴的なのが、「夜も山会」の存在です。「夜も山会」は、昼間登るだけでは物足りない者たちが集った親睦会でした。ここでは、山行の計画やら報告などが大いに語られたということです。

この「夜も山会」には、日本近代登山のパイオニアである岡野金次郎を招いたこともありました。岡野金次郎は、小島鳥水との槍ヶ岳登頂やウォルター・ウエストンと出会ったことなどによって日本の登山史にその名をとどめている人です。彼が晩年平塚に住んだことで、協会とも縁ができました。彼との交流は昭和30年から、昭和33年に彼が不慮の事故で亡くなるまで続いたということです。今、彼の記念碑(昭和36年建碑)が湘南平にあります。

こうして産声をあげた協会は、5年をひとつの節目として記念行事を行っています。5周年と10周年は、記念講演と映画会を開催しました。15周年は、北海道日高山脈縦走を敢行、残雪期のサポート無しでの縦走は日本初でした。次の20周年には夏の北アルプスの涸沢で合同合宿を張りました。25周年は、創立当時ホーム

グラウンドとしてもっとも親しんだ丹沢を見直すべく丹沢の研究を行い、つづく30周年には、郷土の山をよりじっくり理解しようということで、神奈川の百名山にのぞみました。さらに35周年には、丹沢から神奈川へと続いた活動を関東の山々へと広げました。そのあとの40周年は、再び団体の垣根を越えた山行をということで、北アルプスの剣沢で合同合宿を実施、第53回国体神奈川大会と重なった45周年は、特に記念行事を行わずに秋の集中登山で記念撮影をしました。そして50周年となった昨年は、丹沢50山リレー登山と大室山合同登山を行っています。

この間、会長は内田又二2代目会長、小林長治3代目会長へと引き継がれました。

協会は50年の活動の中で、国民体育大会とも関わってきました。選手を派遣したこともありましたが、2度にわたる神奈川大会では、役員の派遣や大会準備に大いに協力しました。昭和30年の第10回大会で協会は塔ヶ岳本部の設営という仕事を任されました。平成10年の第53回大会でも、設営を担当しています。毎年恒例となっている平塚市教育委員会との共催による市民ハイクは、昭和28年春に行われた高麗山・大磯丘陵縦走からはじまります。回を重ねるごとに市民の間に定着していき、昭和43年からは宿泊を挟んでの事業となったので、少し遠くの山々へ活動範囲も広がっていききました。

また、参加者からの希望もあって、昭和48年からは協会主催による秋の登山も実施しています。市民の人たちに山の楽しさを紹介すると共に、安全登山の普及に努めています。

はじめ7団体で発足した協会は、50年間でいろいろと変遷はあったものの、現在は次の6団体で活動しています。

峯溪俱樂部(昭和25年)、日産車体山岳部(昭和26年)、平塚山岳会(昭和28年)、やまびこクラブ(昭和31年)、平塚登高会(昭和37年)、小松製作所ワンダーフォーゲル部(昭和45年)

()は創部年